

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関とホールに理念を掲げ、月1回の会議時に、職員皆で唱和している	昨年度、理念を分かり易い簡素な形に作りなおし、全体で共有し実践に繋げている。理念にそぐわない言動があった場合は役職者が直接注意している。気づくことがあれば職員間でも声を掛け合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢者の集まりや、敬老会にも参加させていただいたり、畑の作物の差し入れもある。防火訓練にも参加していただいた。	法人として地区に年会費(協力費)を収めている。年4回開催される地区の高齢者の集い「鉢伏会」には利用者、職員が参加しホーム外での交流を深めている。特に区のボランティア部会が準備される昼食が好評で楽しみの一つにもなっている。地域の敬老会には全員が招待を受け、地域の一員として交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事に、利用者と参加させていただき、交流を持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハット、事故報告など、細かく報告しており、会議出席者の意見もお聞きして、ホーム運営に、生かしている。	運営推進会議には家族、民生委員、地主、公民館長、消防団員、市職員、地域包括支援センター職員などのメンバーが集り、2ヶ月に1度、奇数月に開催されている。議題はヒヤリハットや事故の報告、運営状況や利用者状況、活動などの報告を行ない、意見・助言などをいただきサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告など密に連絡し、認定更新時には、担当者へ利用者の暮らしぶりなどを伝え、連携をふかめている。	地域包括支援センターに出向き相談介護・福祉事業者のネットワーク「福祉の森」に空き状況を載せていただいている。更新時の認定調査やヒアリングでは、ホームの様子を伝えたり、身体状態に変化のある場合には家族に相談し区分変更の代理申請も行っている。定期的に介護相談員の訪問があり和気藹々と過ごし、時には散歩に付き合ってもらったこともあるという。報告書は月遅れで情報提供されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、なるべくしないように、心がけている。	原則、「拘束はしない」、「拘束に頼らない」をモットーにケアに努めている。認知症状を理解し状態を見分け気かけ、見守りとかかわることで、拘束なしの対応ができています。玄関は施錠されおらず自由に入りができ、外を気にする利用者にはリビングからテラスに出いただき気分転換したり、外と一緒に歩くことで落ち着いて過ごしていただくようにしています。日課の散歩は体力作りと気分転換が図られる時間でもあり、地域住民と挨拶を交わす際にホームへの協力や理解が深まっていることを感じられる時があるという。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待の話は、スタッフ会議では、話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ほぼスタッフ全員の会議で勉強を行った		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの報告、モニタリング等のお話の場や、面会時など、御家族の意見をお聞きし、スタッフ会議や運営会議で報告している。	利用者の殆どが自分の思いや意見を表現でき、伝えることができている。訴えは全て受け入れ、意見要望を汲み取っている。家族面会時には最新の様子を伝えながら意見や要望を聴き運営に活かしている。特に土・日は大勢の家族が面会に訪れ、水入らずの時間を過ごされている。誕生日会は家族の出席を優先し日程調整をしながら計画している。また、行事などの写真を家族宛に郵送し、利用者の最新の様子が分かるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議を開き、意見を聞くようにしている。	月1回のユニット会議は遅番、夜勤を除くメンバーで開催され、業務報告、研修報告、ケア検討会などが主な内容で意見交換を行っている。欠席者は会議の議事録を読み、申し送りで情報を共有している。日々の引継ぎは4回あり就業前に日報を確認し統一したケアの提供に努めている。外部研修を年間計画に盛り込み、一人1回は受講するよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換できる休憩室を確保したり、スタッフの話聞くように、している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部講師を呼び、3回連続(1カ月に1回)の勉強会を行った。他の施設の現状など知れてとても勉強になった。スタッフからも、好評であった。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力していただいている他のグループホームはあるが、スタッフ同士の交流は行われていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から、サービス利用について相談を受けた場合、必ずご本人と面談させていただき、ご本人を理解しようと努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのご家族の苦労や困っていることなどお聞きして、次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状況を確認し、必要なサービスにつなげる様になっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に得意分野で力を発揮していただき、感謝するという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、誕生会に出席していただき、基本、受診は、ご家族にお願いしている。ボランティアに来て下さるご家族もいらっしゃる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚、友人などが面会にいらしたら、また来ていただけるよう声かけしている。	面会は随時可能で多くの訪問者が訪れ、利用者が大切にしてきた関係が継続できる環境にある。家族、知人、友人、昔の同僚が度々面会に訪れ思い出話に花が咲き、笑顔の絶えない時間となっている。お彼岸のお墓参りに家族と出かける方、お正月に外泊され家族と過ごされる方もいる。地域の方の理解も深まり近所の美容院は利用者全員のお気に入りの場所となっている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のお茶や食事の時間は、スタッフも一緒に多くの会話をもつようしたり、トラブルになった時は、個別に話を聞いて、スタッフが調整役となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所なさった利用所の所にスタッフが訪問して様子を伺ったり、御本人、家族を激励している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録、日々の会話の中からの気づき、アセスメントを通じ本人の思いの把握に努めている。	多くの利用者は口頭で思いを伝えることができている。日常交わされる会話の中から、「何を思い」、「何を望んでるか」を汲み取り把握している。旅番組を観ながら過去に出かけた場所を聴いたり、どんな場所に興味を持っているか、新聞折込のチラシを見てどんな洋服が好きかを探り出し、個々のケアに活かしている。夕方になると精神的に不安定になる夕暮れ症候群の対応として、お手玉やかかるたなど、皆でできる工夫をし症状の緩和に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護、看護記録から一日の暮らしの状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、家族の意向を聴取し、管理者等の意見を反映させた介護計画の作成に努めている。	利用者の意向と身体状況は日々接する介護職員が業務日報に細かく記録し、ケアマネジャーも把握している。現状に即した介護計画を作成するため、本人、家族の意向を確認しながら進めている。個別月間記録表を使用しており、上段には短期目標と援助メニューが掲げられている。職員は日々の様子(バイタル、排泄状況、食事摂取状況など)を個別月間記録表に記録する度に目標と援助メニューを確認しながら、支援している。3ヶ月～6ヶ月の期間でモニタリングを行い、状態に応じて継続や修正などを加え更新している。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々体調を観察し、支援の結果を介護記録に記録、支援の見直し、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市のふれあいセンターの風呂を利用するなどして利用者から好評を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館の利用や地区の敬老会、年4回、地区のミニデイサービスに参加し、地区住民と交流を図っている。又、地区の文化祭にも出品し、施設の存在をアピールしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の理解のもと、かかりつけ医、協力医に受診、往診をうけている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。インフルエンザやその他の予防接種は個別にかかりつけ医で受けている。通院や受診は家族に依頼しているが状況に応じて職員が同行し経過を伝えている。時間外や土・日、緊急時にも協力医療機関の協力が有り適切な医療が受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な変化を見逃さない様早期発見に取り組んでいる。気が付いたことがあれば、看護師に報告し、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報を医療機関に提供し、退院時には、早期に出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、終末期ケアが出来るよう、研修、勉強中である。	今年4月より、ホームの課題と目標であった終末期ケアが行える体制が整い準備を進めている。昨年度より終末期ケアについて様々な研修会、勉強会を取り入れホームとして備えてきた。ホームでは看護師が週に1回3時間程滞在し、利用者の健康管理やスタッフの相談に応じている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網は、整備されている。ほぼスタッフ全員が普通救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した訓練を実施し、地域の消防団や、近隣住民も訓練に参加した。	消防署の指導の下、夜間想定訓練を地域の方々と実施した。通報訓練、消火器の扱い方、利用者の避難誘導訓練を行い、地域の方には避難後の利用者の見守りをお願いし本番さながらの訓練となった。ホームでは毎月1回自主防災訓練を行っており、利用者も防火頭巾を被り、職員の誘導で避難をしている。各居室、リビングなどにスプリンクラーが設置され昨年より使用可能な状態となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格を理解し、その人にあった言葉かけや対応、話し方もゆっくりするよう心掛けている。	個人情報の取り扱い、プライバシー保護に関しては契約時に重要事項説明書で説明している。職員にも周知され業務に活かされている。利用者の呼びかけは苗字に「さん」をつけ、同姓の方がいる場合は名前に「さん」をつけている。人権等に関する研修については口頭伝達され、権利擁護の研修はこれから行う予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り希望に添える様、配慮している。利用者の相談など、気軽に話せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活が乱れない範囲で、その人のペースを大切に、利用者の話に耳を傾け、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、洗面時配慮している。「似合いますね。素敵ですね。」など利用者が喜んで笑顔になれるよう言葉をかけ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に出来る仕事をお願いして、役立つことの喜びを感じて頂き、利用者とスタッフが、一緒に楽しく食事している。	朝夕の食事は職員と参加のできる利用者で準備をしている。一人ひとりの「出来ること」、「力」を把握し、食事を楽しむことが出来るよう配慮されている。ホームの南側には家庭菜園があり、夏場はきゅうり、トマト、なす、かぼちゃ、さつまいもなどの収穫があり食卓に彩を添え、共通の話題となっている。近所より沢山の柿を頂戴し、冬の風物詩である干し柿作りを全員で行った。出来栄も良く、お茶の時間に味わったり、来客時のおもてなしに出され喜ばれている。	

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量・水分量をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし、その人の力に応じて支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンをつかみ、なるべく排泄の自立にむけ支援している。	日々のケアで個々の排泄状況を分析し自立に向けての支援を続けている。定時誘導、適切な介護用品を使用することでトイレでの排泄を可能にしている。失禁や失敗のあった時は自尊心を気づけないよう、さりげない対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と散歩、水分補給の徹底、野菜や果物も摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、入浴中、後も笑顔で喜んで頂ける様、会話にも配慮している。利用者は限定されるが、日帰り温泉に行く人もいる。	利用者の希望するタイミングに合わせて入浴できるよう工夫をしている。入浴時間は1時間程度を予定し、一人ひとりお湯を張り替えている。中には入浴を拒む利用者もいるが、原因を探り対処している。利用者によっては近くにあるお風呂に職員が同行するなど一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を心がけ、生活のリズムを整える様努めている。リネン交換も定期的に行い、布団干しも行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が薬の内容や副作用までは理解していないが、誤薬がないよう注意し、服薬時は、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション(歌、トランプ、かるた、しりとり、塗り絵など)や食事の手伝い、洗濯物たたみなどしていただいている。		

グループホームきんもくせい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩、ドライブなど行っている。地域の行事なども、参加を心がけている。	ホームの周辺を体力作りを兼ねて散歩している。近くにコンビニが出来る予定で散歩コースを拡大する予定をしている。度々お邪魔する近所のバラ園では休憩用の椅子が準備され地域の方の温かい気持ちを感じている。春から初夏にかけては桜、紫陽花、牡丹、藤を見に出かけ、秋には紅葉狩り、ぶどう狩り、「鉢伏会」や敬老会にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は家族から預かり、必要なものが買えるよう支援はしているが、本人が使えるようには支援出来ていない。買い物支援は少ないが出かけた時は、希望の物を購入している。その時は、ご本人にお金を払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話はしていただいている。毎年、年賀状は、家族宛に書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を置いたり、壁には、季節ごとの飾りつけをしている。温度や湿度にも配慮している。	居間兼食堂は南向きの吹き抜けで床暖により足元は常に暖かく、天井にはシーリングファンが回転している。大きな吐き出し窓の向こうに広々としたテラスがあり、多目的に使用されている。リビングの壁には利用者の詠んだ俳句や今年の夢が筆で書かれ飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで新聞や本を読んだり、談話室でテレビを観たり、穏やかに、仲良く過ごせるように、雰囲気作りをしている。夏期には、テラスが活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、寝具はご家族が用意くださり、写真や思い出のものなど持ち込まれている。	居室は個々の私物を持ち込むのに十分な広さがあり、使い慣れた家具や家族の写真が飾られ落ち着いた場所になるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に表札をつけ、トイレは大きな字で表示している。		